

第2章 「知・徳・体」のバランスのとれた基礎・基本の徹底

芸術教育の充実

芸術教育は、表現や鑑賞の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、豊かな情操を養うことをねらいとしており、人格形成の基礎として重要な役割をもつ。

1 芸術教育に関する指導の充実

平成28年12月の中央教育審議会答申では、芸術を学ぶことについて、次のように述べられている。

グローバル化する社会の中で、子供たちには、芸術を学ぶことを通じて感性等を育み、日本文化を理解して継承したり、異文化を理解し多様な人々と協働したりできるようになることが求められている。このため、音楽や美術、工芸、書の伝統や文化を尊重し、実感的な理解を深めていくことが重要である。

また、芸術系教科・科目における教育内容の改善・充実について、次のように述べられている。

芸術系教科・科目においては、子供たちが、世の中にある音楽、美術、工芸、書道等と自分との関わりを築いていけるようになることを大切にしている。しかし、授業の中で、なぜそれを学ばなければならないのかということを実感することについては、教員の意識としても、子供たちの意識としても弱いのではないかという指摘もなされている。このため、授業で学習したことが、これからの自分たちの生活の中で生きてくるという実感をもてるよう、指導の改善・充実を図ることが求められる。

2 各学校の創意工夫

学校における芸術教育では、生活や社会の中の芸術の働きや芸術文化と豊かに関わり、生涯にわたって芸術文化を愛好する心情をもてるようにする必要がある。

各学校では、児童生徒一人一人が個性的・創造的な学習活動を行うことができるよう、創意工夫を生かした教育活動を展開することが大切である。

- 美術館等の文化施設、社会教育施設、地域の文化財等の活用や連携
- 実物の美術や書の作品、専門家による演奏の直接的な鑑賞
- 作家や学芸員、音楽団体等、専門家の経験豊かな人材の活用や連携
- 総合的な学習の時間や学校行事、地域に関係する行事などとの関連
- 我が国や郷土の伝統的な文化に関する指導の充実
- 専門家等の経験豊かな人材の活用
- 芸術と生活や社会との関わりを実感できる指導の充実
- 随時鑑賞に親しむことができるような校内環境の整備
- 感じたことや考えたことを友だちと語り合ったり、自分の価値意識をもって批評し合ったりする場の設定 など□

(1) 我が国や郷土の伝統的な文化に関する指導の充実<小学校 音楽科>

題材名「日本の楽器の音色やリズムの特徴を感じ取り、オリジナルの『ええじゃん SANSA・がり』をつくろう～台湾の友達に「尾道」のお祭りの音楽を紹介しよう～」
【尾道市立日比崎小学校（第4学年）】

学習の流れ

- ① 交流している台湾の友達に「尾道」について紹介できるものはないか話し合い、言葉が分からなくても理解し合える音楽のよさを生かして、尾道の祭りの音楽である『ええじゃん SANSA・がり』の音楽を紹介することとする。
- ② 原曲の民謡『正調尾道三下がり』を聴き、『ええじゃん SANSA・がり』と比較して音楽の雰囲気等がどのように違っているか出し合う。
- ③ 『ソーラン節』や『葛西ばやし』などの日本の民謡を聴き、日本の民謡で使われている楽器や使われているリズムなどの特徴を捉える。
- ④ 学習したことを基に、台湾の友達にどのような雰囲気の音楽を紹介するか話し合い、オリジナルの『ええじゃん SANSA・がり』をつくりたいという思いをもつ。
- ⑤ 楽器の音色やリズムを工夫して、『ええじゃん SANSA・がり』のリズム部分をつくる。
- ⑥ つくったリズム部分を加えて演奏した『ええじゃん SANSA・がり』を録画し、台湾の友達に紹介する。



民謡で使われている楽器を使ってリズム部分を作っている様子

指導の工夫

交流している台湾の友達に紹介するという目的意識を明確にしたことで、言葉が分からなくても理解し合える音楽のよさを生かし、地域の祭りの音楽である『ええじゃん SANSA・がり』を用い、日本の民謡の特徴をいかした音楽づくりを行うことができた。

(2) 感じたことや考えたことを友達と語り合う場の設定<中学校 美術科>

題材名「ゴッホの思いに迫る」【庄原市立庄原中学校（第2学年）】

学習の流れ

- ① ゴッホの自画像（白黒に変えたもの）を鑑賞し、作品の印象を交流する。
- ② ゴッホの自画像について、鑑賞の視点を基に作品の特徴や感じたことを交流し合う。
- ③ ゴッホの他の自画像を鑑賞し、自分なりに感じたことや考えたことをワークシートに書く。



グループで作品から受ける印象について交流している様子

指導の工夫

ゴッホの自画像と白黒に変えたものの二種類を用意して鑑賞させることで、色による印象の違いや効果を実感させる。その後、ゴッホが描いた数々の自画像について鑑賞を行うことで、作者が自分の内面を表現するために描き方を変えていることに気付かせることができる。

(3) 日常生活で書に親しむための指導<高等学校 芸術科>

題材名「うちわによる創作」【広島県立海田高等学校（第3学年）】

学習の流れ

- ① 漢字古典の臨書を通して、書体や書風に即した用筆・運筆について理解し、表現技法を習得する。
- ② 「うちわ」を用いて作品を制作するに当たり、ふさわしい語句及び書体や書風についてワークシートを用いて整理し、より効果的な表現の工夫を考える。
- ③ 意図に基づく表現にふさわしい素材を選択し、創作を行った後、相互に鑑賞する。



生徒作品

指導の工夫

日用品から表現したいイメージを想起し、ふさわしい書体や書風を用いることで、臨書によって学んだ知識・技能を活用する場面が設定されている。また、日用品を用いることで、書を愛好する心情を育てることに資する実践となっている。